

水辺考

第1号 1988 3月

〇 生れたての“かいほう”です 〇

昨年の10月に発足した「新潟の水辺を考える会」より、会報“水辺考”第1号をお届けします。11月に西川ウォッチングを行ってから、すっかりなりをひそめていましたが、そこここに春の息づかいが感じられるようになり、皆様に忘れられないうちに、こちらの方もそろっと準備体操でも始めたいと思います。

記念すべき第1号は、11月29日に行なった西川ウォッチングと、渡部さんのお宅をお借りしての第1回総会の御報告がメインです。20名弱の方が出席し、西川沿いをブラブラ歩いた後、総会では予定時間をオーバーして熱い議論が展開しました。とてもその全部をお伝えすることはできませんが、エッセンスを取り出し、お伝えしたいと思います。

まずは大熊先生（会長）のご挨拶からです

水は地球にだけ有り、自然とうまく付き合うために、その接点として、水辺を考えていきたい。日本海側・新潟の水辺に対し、自然の厳しさ、怖さを知った上で水辺にふれることを目指していきたい。

水辺の殿堂として『川の博物館』を作りたい。5階建ぐらいでホールや体験室、川の自然・治水・利水、信濃川コーナー、その他、結婚式場などを持ち、川の専門研究員なども置きたい。

また、当日ウォッチングした西川沿いの道は昔、芭蕉や明治天皇も通った新潟の文化の通り道であったことにも着目したら面白いのではないだろうか。

☆ここでちょっとニュー-スです☆

大熊先生の本が出版されます。

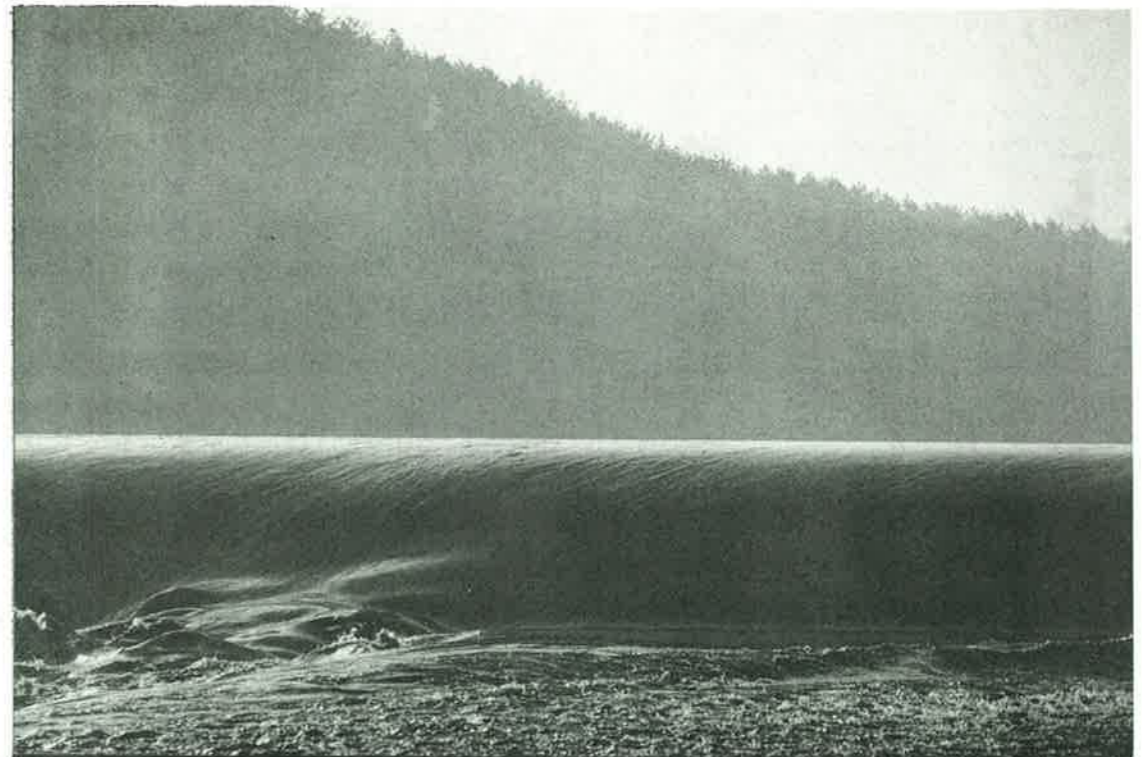
「洪水と治水の河川史-水害の制圧から受容へ」 平凡社

2,600円のところ会員特別割引で20%OFF + 送料でお買求めできます。

水辺考人 必読書!!

かって、私達の祖先は山辺に住んでいたと言います。母親の胎内に入っているような安らぎのある快適な山辺空間から、何故人々は平地に下りてきたのでしょうか？本書は、人々が川へどんな想いを重ねて快適な空間=水辺にしてきたか、時間の流れを追って教えてください。

☆BOOKS☆



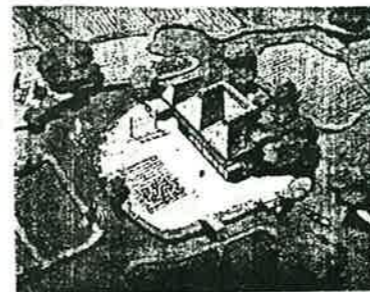
信濃川

撮影：弓納持福夫

次は「西川をきれいにする会」会長の渡部さんのご挨拶です

西川は昔しばしば氾濫を起し、農家は悲惨な生活を強いられてきたが、大河津分水の完成で、洪水は数年に1回となり、関屋分水の完成でほとんど無くなった。西川の堤防は運搬土によって造られた川であり、天井川となっている。その恵みによって生きたことを地元でも忘れつつある。また、都市化によって流入してきた新しい住民はそういう時代の川を知らない。

遅くなりましたが…「柳川堀害物語」上映会のご報告です



10月15日、県民会館で上映させて頂き、昼の部夜の部合わせて400人近い方が観にいらして下さいました。その中には行政からの参加者も数多かったようです。金銭面では、シンポジウムの都合もあり少し足がのぞきましたが、映画は非常に好評で人それぞれに感じる所があったようでした。また、新潟をふりかえってみても、考えさせられる点が多かったように思います。

